

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	さくらの家 東船橋
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	千葉県 船橋市 東船橋 1-21-12
記入者名 (管理者)	笠川 由実子
記入日	平成 21 年 1 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	お祭りや、パトロールなどに取り組んで生きたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者支援を精一杯行っているが、地域の高齢者の役に立つまでの広がりはまだ出ていない。	○	今後は相談に乗ったり、スタッフの介護技術も高いので是非様々な角度から取り組んでいきたい。認知症のサポーターなど行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の実施した外部評価などをよく読み、参考にして、改善点など職員と共有している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの方々と利用者の生活の実際を報告し、家族へのアンケートの改善点などで意見交換を行っている。日常の生活の姿を写真のスライドショーで見せていただいている。自治会長さんは入居者と一緒にお茶を飲んだりし談話して下さる。職員も介護の質を高めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に行った折には、包括支援センターに寄って様々な相談を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などで学んでいるが全職員が成年後見人制度などの知識を有して活用できるとは思えない。	○	これからの課題として全職員の知識として学ぶ機会を身に付けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は船橋市健康福祉局福祉サービス部開催の「高齢者虐待について」の研修に参加しカンファレンス時に発表してもらい、他のスタッフと勉強会を開催した。管理者の私も県のリーダー研修で講師を務め常にホーム内の虐待に留意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の家族の説明は疑問点など十分に説明し、理解していただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がのびのびと安心して暮らせるように、又思いを表現し易いようなホーム作りを常に目指している。尚、言葉での表現が出来ない人は意を汲み取るような支援を行っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月の健康状態と様子を手紙に写真を同封し郵便で送っている。金銭管理は面会時にキーパーソンにその都度サインを頂いており預かり金は金庫に、保管し管理している。領収書は1部をコピーしホームに保管し家族に送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社が家族宛にアンケートを個々に送付し、ホームを通さず意見を吸い上げており、各ホームに反映できるように支援しホームでも常に心がけて運営している。家族の面会時には話し易い場を提供しており、家族も一緒にお茶やおやつを食べて過ごして頂いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内の会議を月1回から2回行っている。その都度、職員の発言を大切にし参加出来なかった職員の意見も参考にしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	本人の働きやすい時間帯を考慮している。勤務表作成前には希望の休みなどを聴き入れ、職員が補いあっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は今のところはない。離職があった場合は残っている職員が利用者の個々の様子を伝えダメージが軽減されるようケア体制を作っている。10ヶ月正社員の離職はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内でのカンファレンスで老人の健康にかかわる病気について勉強したり、「高齢者虐待について」の研修に職員が参加したりし受講した内容を他の職員に伝えている。全職員に介護福祉士を目指して勉強をし、現場で大切なことなどその時々で指導している	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は千葉県のグループホーム連絡会や船橋市の連絡会に参加しており様々な施設との交流があるが、職員は相互訪問など未だ出ていない。	○ 今後は自施設だけでの経験のみから脱却し、他の施設などとも連携し質向上の切磋琢磨の出来る機会を具体的に持って行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護初心者に一気に仕事の負担が起きないようにベテランと組み合わせるなど考慮している。尚、会議で介護分担を互いに補うこと(得て、不得手)を職員同士がカバーしている。 例・・・ 食事づくり、男性職員の入浴介助、掃除など	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の職員の持てる力が発揮できるよう、お互いに切磋琢磨し自己を高めることが出来る環境づくりに常に配慮している。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の本人からは聞き取ることは困難であったが(適切な訴えが出来ないため)様子から汲み取る努力をしている。又家族より状況を良く聞き取るように相談を行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階で現在出来ること、出来なくなったこと、今も出来そうなことなど、家族が伝えたいことを(話したくないことは訊かない)汲み取る努力を惜しまない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望に応じており、その他の在宅サービスや施設などの説明も行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	去年は1階のデイサービス利用者の入居であったため、馴染みの場所と職員が居り、スムーズな入居であった。寝具や茶碗など利用者本人が使用していたものが継続して使えるように配慮している。(箆笥や仏壇、衣類なども含む)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に掃除をしたり、料理や買い物を一緒に行ったり外食を共にしたり生活や楽しみを共有している。夜にゆっくり眠ることが出来るように入居者と職員が支えあう体制が出来ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会者が多く、一緒にお正月を過ごしたり、共に話し合い支援方法などを検討し本人を支えている関係が築けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との良好な関係が保たれるように、職員は支援出来ている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に毎週帰る利用者もおり、パーマ屋さんなど馴染みが壊れないように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食卓に座る位置やお茶を飲むとき等、助け合ったり、話が出来るように工夫をしている。利用者同士の係わり合いにも気を遣っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	面会時間は特に設けておらず、いつでも面会や外出が出来るように運営している。いろいろな関係が継続できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者主体であることを常に確認し合い、個別ケアについて職員は出来る限り、支援している。起きる時間、寝る時間、入浴時間など本人の希望に添えるように介助を常に模索している。パーソン・センタード・ケアを目指している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時など、今までの生活習慣や環境など、在宅でのサービス利用状況など、家族や担当のケアと経過を踏まえ、支援方法を考えている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別ケアの実施、身体レベルの考慮、残されている力などに配慮し優しく自立支援に結びつけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が様々な角度からアセスメントし、安心して暮らせるような支援、家族と面会時など話し合った事柄をプランに反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にケースカンファレンスを行い、往診時や訪問看護師と1週間に1回報告をし、面会時や家族に電話などの時に話し合った事などをモニタリングし現状に即した計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送りや日々の様子、健康の記録で情報を共有しており、実践にも活かしモニタリングの参考にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時間や外出時間、家族の都合に合わせて柔軟に対応しており、本人の安心な暮らしを支えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議では民生委員の方の参加があり、防火訓練や消防署のスプリンクラーの設置や指導などで来所し共同して活動している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向を鑑みて、他施設の利用についてなど話し合っている。市役所に相談窓口などを紹介したり、必要に応じて他の病院に通院するなど家族と協力して支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などの相談で地域包括支援センターに相談し、会議に参加していただいて話し合いや、協働して総合的な支援を視野に入れている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を受け入れ、かかりつけ医が変わらないで医療が受けられるように支援している。家族が受診に付き添えないときは、職員が同行し家族に報告している。現在6箇所の病院、5人の通院を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居前の診断で認知症の治療はあまり行っていない。一人は通院していたが現在は受診していない。訪問診療時に医師に相談することもあるが、支援に限界を感じる困難なときもあり、もっと的確な診断が必要と思う。	○	精神科の受診などもっと改善や治療が進展すれば良いと思っている。家族や本人などの理解を得ながら、治療に結び付けて行きたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	1週間に1回の訪問看護があり、様々な健康管理の相談に応じてくれる。擦り傷や便秘などこまめに対応してコミュニケーションが図れている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院したときは面会回数を多く持ち病院の相談員との連携を図り、情報交換し適切な退院について検討している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の医療体制指針の契約を行っており、家族との連携は図れているが職員が全員十分な知識があるとは思えない。	○	今後カンファレンスの議題などで職員が共有できるように勉強会など開催し方針を見出したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日常日々をより良く生活できるようにチームで仲良く支援できているが今後の変化に備えての検討は深まっているとは思えない。	○	今後カンファレンスの議題などで職員が共有できるように勉強会など開催し方針を見出し準備を行って行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までは他に移った入居者はいないが、特養などへ入居希望の方もおり、家族との話し合いや紹介など話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に優しいことばかけに配慮することは日常確認し合っており、職員は冷静に対応できている。日々の記載も誰が見ても良いような対応であることを基本にしている。利用者の尊厳が守られる配慮を常に心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	出来る限りの自己決定の尊重を重んじ、健康を損ねてしまうことや、本人にとって良いことは誘導の仕方に工夫し、上手に出来ている職員から学ぶことができる職員の関係が構築出来ている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体のケアを展開しており、個別ケアを重視してケアを行っている。利用者のペースや状況を考え、日々の支援を行っている。出来る限りの希望に添えるよう職員は努力している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホームにも理美容が訪問しているが、家族と出かけて、美容院に行っている利用者もおり、それを支援している。整容にや身だしなみにも配慮を怠っていない。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部一緒に作ったり刻んだり利用者と一緒にいるが未だ完成された一体感は育まれていない。	○ 残された力の活用が未だあり、日常出きる力の活用が徹底されてケアが出来ているとは思わず、参加するケアが大切であることの職員の育成が今後の課題でもあるため日々教育段階である。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家にいたときの状態からの継続が望ましく、ビールを飲む習慣など無理に禁止したりせず緩やかに継続支援を行っている。尚今は寒いので殆ど飲まない。入居時は吸っていた煙草も入院を機に忘れてしまったのか最近はずっかり要求しなくなっている。家族と相談し柔軟な対応を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全員がトイレで排泄!!を目指し実行している。車椅子の入居者も日中は全員トイレで排泄ができるようにケアすることを職員は当然のことと思っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	そのときの様子をみて入浴をゆっくり楽しめるよう順番や日にちを柔軟に対応している。入浴嫌いの入居者も誘い方で、ある程度の入浴が楽しめている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の対応を充分にし、夜間に眠れるように支えている。室温や湿度など季節に応じて、調節している。安眠が得られるよう明るさなども考えている。夜間は入居者は落ち着いており、不穏な状態の入居者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近隣の公園に行ったり、近くの喫茶店に行ったり、買い物や外出に出かけている。車で海が見えるところまでドライブしたり、手賀沼に行ったりし、日中の活動を支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居している利用者では、短期記憶が保たれず、隠したり仕舞ったりして忘れてしまい盗られたと勘違いして混乱がおきてしまうので、利用者はお金を常時持っていない。家族より、おこずかいとして預かり、職員と一緒に買い物に出かけて必要なものを買っている。領収書と出納帳を家族に確認してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外出ができるように1日の午前、午後で時間を調整している。全員で外出できる日を1ヶ月で1から2回プランに入っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と結婚式や新年会、喫茶店、買い物等に出かける事を支援している。職員と一緒に海を見に行ったり、ドライブや買い物など外出の機会が多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から直接電話することが出来る入居者は今はいない。電話番号、電話の使い方が出来ない為、利用者から要望があって家族の了解もあって適切などときには職員が受話器を手渡している。1年間で4～5回程度の娘さんへの電話利用があった。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会は可能であり、家族や友人など面会者は多い。一緒にお茶を飲んだり、お孫さんやひ孫さんとの一刻を過ごされることも良くある。利用者の部屋には娘さんの庭で育てた季節の花が常時飾ってあり暖かい光景が見られる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止、虐待防止にホームは取り組んでおり、職員も研修などで学びカンファレンスで共有して学びの場を設けている。日常の介護の中でベッド柵の拘束や動けなくする拘束、言葉での虐待、薬での拘束など勉強している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵で拘束することは行動を抑制してしまうことであり、身体レベルの低下や精神面での不安感が高まることを理解している。外に出たい時はスタッフと出かけ、疲れたところに帰ってくるようにしている。夜間は鍵を掛けている。日中もホームが2階にあり階段を転落する危険があるため、最低限の鍵は掛けているが出たい入居者を抑制はしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者を職員はさり気なく見守り、様子を把握しケアを展開している。安全、安心であることを目標にし、自立支援に向かったケアが望ましいし、職員も心がけて昼夜問わず支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒薬や洗剤などを利用者の状態によって片付けている。利用者の行動を把握し対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止と事故予防を同時に行っている。転倒防止には階段などは降りるときは職員が先に、昇る時には職員がやや後ろにいて転倒を最小限でくい止め、日常に歩行練習を行っている。薬の管理を個別に行い2人以上が確かめ合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日常のケアの中で誤嚥や急変時の対応を話し合っているが全職員が対応が可能とは未だ思えない。	○	カンファレンスの中で応急手当や初期対応についての時間を設けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練や全員で外出することを定期的実施しており、日頃から避難できるように、職員は身に付けている。1階のデイサービスとの連携も話し合っており、合同で火災訓練などを実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ゆったりと生活できるよう職員は大きな声や物音、雑音などに配慮し、入居者を抑制する言葉を使わないように全員が認識しほぼ実行できている。家族の面会時や毎月の手紙などで、利用者の様子を伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝の申し送り、バイタルチェック、遅番への申し送り、夜勤者への申し送りなどで入居者の体調やいつもと違ったこと、夜の様子を細かく伝え合っている。事故や急変時には速やかに対応できるシステムになっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬できるよう、手の平に乗せる人、薬袋のままでもいい人、口中確認から薬の嚥下確認迄と利用者に合わせて服薬管理を行っている。薬の処方箋は個々のカルテに入っており、いつでも閲覧でき、理解していると思う。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄記録表を時間を追って記載し介助職員は介助毎にサインをしている。医師の指示の下、便秘薬の管理をし、便秘には看護師や医師に相談して解消を図っている。おやつは繊維のある焼き芋や寒天などで手作りしたり、予防などに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝晩の口腔ケアを実施しており、夜間は毎日義歯の洗浄を行っている。1週間に1～2回の歯ブラシや義歯ケース、コップなど消毒している。介助には出きるだけ自立支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食、10:00、昼食、15:00、夕食と1日5回の水分は全量摂取ができるように支援している。現在は一人のみ介助を有するが、服薬の水も含めると1日800～1000CCの水分が摂取できている。散歩などから帰って来た後、入浴後なども水分を提供し尿の回数、色、量なども確認している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	厚生労働省のマニュアルに沿って、外出から帰ったらうがいや手洗いを、支援している。晴れた日は布団を干す等室内にも風を通していている。キッチンハイターの薄め液でトイレや手すり、床など掃除をし、予防を行っている。尚トイレや入浴場などには使い捨ての手袋が設置してあり必要に応じて使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品の買いだめをしない。調理器具の毎日夕食後のハイター消毒など行っている。賞味期限を守り、安全な食品管理に努めている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームは2階にあり1階は別の会社が管理しているため建物の周りは別の管轄になっているので特に行っていない。階段には、写真や貼り絵の作品を毎月展示し、玄関には花や季節のものを飾っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はソファや座布団などが置いてあり、寛げるようになっている。居心地良く過ごせていると思われる。職員の大きな声やにぎやか過ぎないように常に配慮を怠らないでケアをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1ユニットなのでスペースにも限界があり、確実に思い思いに過ごせているかの判断は難しいがそれぞれが集まったりテレビを見たり、利用者同士がおしゃべりをしたり楽しんでいる。時には言葉の理解が出来なかったりで喧嘩になってしまう時もあるが職員が間に入ったりで工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳で布団を敷いて寝る人、ベッド、仏壇や箆笥などそれぞれの家族がなじみの家具などを持ってきて様々に工夫している。季節の花なども持ってきて飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除時には換気をし、気候の良い日は窓を開けている。冷房は弱めにし寒い夜は1時間を各室暖房し足などが冷える人は温枕を足元に入れて布団を暖めている。朝起きる前1時間暖房を入れ着替え時に寒くないように支援している。夜間のトイレのために廊下は弱暖房をしている。小まめに調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームが2階にあるため外出時は階段を昇り降りするので、9名中8名が手摺りに掴まって出来ている。段差はあるが、入浴の浴槽を跨ぐ為にも自立を目指して支援を行っていかないと生活が豊かにならない。1日でも長く歩いて、頑張って生きることを支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレが分からずに探しているときなどさり気ない誘導で混乱を避けている。又失敗して押入れや廊下で排泄をしてしまった時など受容することを職員は周知しているため、利用者の尊厳が保てるケアを心がけている。着替えも見守り、声かけ、誘導、一部介助、全介助と個々によって自立できるように優しく支援をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームが2階にあるため、建物の周りは違う会社なので花などはないが、近隣の公園に行きながら、景色を楽しんだり庭に咲いている花々や空を見たりして季節感を味わっている。五感を緩やかに刺激する声かけを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別ケアを心がけ、利用者主体であることを、職員は理解している。昨年4月から管理者として勤務しているが熱発者が10ヶ月で1人も出ておらず、食事も殆ど3食残さずに摂取出来ている。10ヶ月間体調を崩すことなく、風邪も引いていないので入居者の健康は良好な状態が続いている。パーソン・センタード・ケアであること、安心して安楽に日常過ごせることを日々考えケアに結びつくように職員は力を合わせている。職員同士が仲が良い事は、利用者にとって居心地の良い環境の提供が出来る事であり、チームワークの大切さを基盤にケアの質の向上を目指している。